

奪われたハンドル

検証

浦和電車区事件の真実 告知版

民主化闘争情報 [号外] 2008年9月26日 発行 日本鉄道労働組合連合会 (JR連合)

浦和電車区事件の真実を訴えます！ マンガ「奪われたハンドル」の連載を開始

本日より、これまで50回にわたって連載した「検証・浦和電車区事件の真実」をマンガ化した、新たな検証シリーズ・「奪われたハンドル」の掲載を開始します。

「奪われたハンドル」は、2000年末から翌年夏にかけて、JR総連加盟のJR東労組に所属していたJR東日本・浦和電車区の若手運転士である吉田光晴氏が、JR連合組合員と交遊したことなどを理由に、JR東労組の役員などから、激しく繰り返し糾弾、恫喝され、組合脱退、さらに会社退職に追い込まれた強要事件（浦和電車区事件）の内容を、本人の証言や、刑事裁判のやり取りなどから、事実を忠実に再現し、マンガ化したものです。

加害者である7名は2002年11月に逮捕・起訴され、2007年7月に有罪判決が下されました。JR東日本は、この判決を受け、8月に社員籍のある6名全員を懲戒解雇しました。

これに対してJR総連・JR東労組は、「浦和電車区事件」は「えん罪」であり「国家の意思による労働組合の不当弾圧だ」「被害者は吉田ではなく被告だ」などと主張しています。

人間の尊厳を否定する行為は正当な組合活動ではない

今秋から、東京地裁の第一審で有罪判決を受けた被告7名の刑事裁判の控訴審が始まります。JR総連・JR東労組は大弁護団を結成し無罪を勝ち取るとしていますが、組合員は、この事件を「えん罪」と信じ、加害者を助けるために、多額の組合費が使われ、支援を強要されることに納得しているのでしょうか。

労働組合の本分は、働く者の助け合いを通じて幸せを築くことにあります。また、JR労働者にとって、安全の確立が最重要課題であることは言うまでもありません。「団結権」の名を借りて、自らに不都合な者を集団でいじめて退職に追い込むという、人間の尊厳を否定し職場の信頼や安全を破壊する運動が許されてよいはずはありません。

安心して働けるJRの職場づくりに立ち上がろう！

JR総連・JR東労組のこうした組織方針と運動が続く限り、不健全な職場実態を変えることはできません。JR連合は、組合暴力による被害者の救済と、社員がお互いを信頼し、安心して働ける職場づくりをめざし、「民主化闘争」の完遂にむけて取り組んでいます。そして、これまでJR東労組の横暴を容認してきたJR東日本の会社の姿勢にも、ようやく変化が生じようとしています。

このシリーズをお読みいただき、実際に職場で行われた事実について、あらためてご検証ください。JRの健全な発展のために、今こそ、真実を理解いただき、「おかしいことはおかしい」と声を上げていきましょう！

「奪われたハンドル」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>

奪われたハンドル

JR東日本・浦和電車区事件の真実

